

は、市民参加型の開発ではなく、すべては政府開発型によるものです。それらは当然、開発をめぐる力関係の帰結といえます。例えば、開発の主導権と関連する受益者は誰なのかというような問題が出てきます。

2点目は、世界遺産を文化遺産や文化資源として考えられていますが、私としては、麗江は世界遺産というよりは、せいぜい観光スポットの1つにすぎない存在になっていると思います。観光スポットとして、麗江古城は一つの建築空間として

そのまま生き残っていますが、麗江古城をつくり出していた地元の住民たちは、“観光開発”によって既に麗江から出て行ってしまいました。世界遺産の精神を語り、受け継ぐ担い手は誰なのか、開発によって麗江までやってきた外部者は、その精神や本質をどこまで伝えられるか、という問題について、先生のご意見、お考えをぜひお聞きしたいです。また、もしよろしければ、麗江の観光開発とバリの観光開発を比較したご意見もお聞きしたいと思います。以上です。

ディスカッション

○座長 谢谢高明洁教授的点评，在座的五位教授每人有二点五分钟的时间，对两位教授的评论和提问有一个简短的回应，先从王处辉教授开始。

○王处辉 感谢马场先生和高明洁先生的点评，非常受启发。我就马场先生的两个问题做简要回答。

第一个，我们怎么看中国的上中下层，我相信在座的各位都是关心中国、研究中国的，一定要到中国社会当中去看中国，研究中国，不能只看报纸，也不能只看中央文件，那些只是一部份，要考察真实社会。真实社会才是真的中国社会。中国的上中下层确实是不一样的，这方面我做了若干调查。基层民众和官僚的私下生活是传统的。在知识分子当中，青年知识分子当中，他们的话语，他们的价值系统是自由主义的。在官方的正式会议和文件中都是马克思主义、邓小平理论，“三个代表”，科学发展观，但是在会下吃饭时，他们就不讲这些了。现在提倡和谐社会是说，我们只有建构一个和谐社会，这个社会才能发展，是这样一个概念。真正的和谐社会是什么样，没有人能够描述，他可能永远不存在，是一种价值导向。中国发展必须构建和谐社会，在这个过程中我们做什么，用官方的话来说就是要通过马克思主义大众化，马克思主义中国化这样一个途径。但是马克思主义中国化的路径是很艰难的，到现在为止还没有找到合适的路径。邓小平曾经说过，中国必须改革开放，不改革中国就是死路一条。这是邓小平的原话。在思想领域、文化领域也一样，马克思主义必须大众化，到知识层去，做知识层的主导，作民众生活的价值主导，

否则马克思主义只飘在上面，文件当中，依然是死路一条。马克思主义必须与中国实践相结合，需要继续寻找，我没有结论，希望大家一块努力。

第二个是关于西方的排斥性是不是过于单纯的问题。大家知道新教被承认是经过流血的，但是佛教到中国来是没有经过流血就进来了，来就来了。西方是你有本钱与我对抗，或需要付出很大成本的时候，他才坐下来跟你谈判。中国不是，来就来了，明明有充分力量把对方打掉，也不打。如果中国和西方一样，在郑和下西洋时，中国就会成为世界上的第一个殖民者。但中国不作殖民者，没有这个想法，只是要求以我为主，大家共存。这是跟西方不同的。刚才讲西方传教士到中国来传教，传不下去，就是因为他要求中国人只能相信一神，不能信自己的祖先。中国人（如徐光启）说，不让中国人信祖先，中国人绝不信天主教。后来利玛窦妥协，同意中国人既信奉祖先，也信仰天主，中国人才接受天主教。但罗马教廷对利玛窦等人的作法是大加批评的。同样的情况在中国不会出现。你们可以看看乾隆的寝宫，是有很多佛经的。中国文化是并行不悖，只要承认核心价值，其他观念都允许存在。我们必须承认这一点，反对这一点的都不成功。

○座長 请张海洋教授发言。

○張海洋 高明洁老师她实际上提了两个问题一个探讨，我先简短回答两个问题，然后对一个探讨发表一下我自己的感想。

第一个问题，我刚才说的这些话在国内是不

是可以说。我的发言基本上是对在国内不同地方说过的话的一个集结，是可以说的。说了有什么后果呢？我是两个月前被学校任命为中国少数民族研究中心（EMSCC）——相当于日本的 COE——的主任，我想这足以说明中国官方是允许类似言论存在的。但是不能在主流中存在，比如我还没有在《中国社会科学》这样的刊物发表过文章，但在省一级刊物等其它地方是可以的，在《中国民族报》上是经常说的。

第二个问题提的是民族教育的功过。我想你提的是国民教育，我确实承认中国的国民教育的主流没有能从鸦片战争、辛亥革命、“五四”运动的悲情意识、受害者心态中解脱出来。我觉得从长远看来这不合适，因为他是一个竞争之道而不是和谐之道。道德应该多讲有关“善”，多讲“仇恨”总是有局限性。如果说到对少数民族教育，我觉得至少是对个体好，但是对社区共同体未必有利。如果要对两者都好的话，我觉得除了教育，还要加上就业安排。对于共同体来说，要在少数民族的教育，而不是国民教育体系中加上多元文化，加上乡土的、民族的小传统的内容。

一个探讨，关于我利用了汉族身份，说话胆子就大一点，空间就大一点。我承认，对于少数民族，我利用了汉人的身份。同时我也承认，对于官方，我利用了学者的身份。还有一个可利用的身份没有利用，就是对于洋人，我还没有利用中国人的身份。所以我希望大家能有一个合作。这首先是做民族学、人类学的好处，再就是做多元文化的好处，第三是大家合作的好处。如果大家在元代被当成一个蒙古人的话，现在就没有人给蒙古人说话了。

○座長 请山下老师回应。

○山下 高さんからのコメントと質問に対してですが、まず第1に、こんにちの地域研究は、当該地域のなかだけではできなくなっているということがあります。グローバル化の時代には、地域研究はグローバル地域研究にならざるを得ないわけです。したがって、わたしのような非中国研究者の視点も必要になってくるかもしれません。お招きいただき、どうもありがとうございました。

第2に、中山大学の人類学者である王建新さんのことが出てきました。彼とは、2週間前にアメリカ、カリフォルニア州のバークレーで、人類学

のネットワークをつくらうという会議で一緒になり、来週もまた、今度は日本の大分県別府市の立命館アジア太平洋大学で同じような趣旨の会議があり、ご一緒することになっています。このように、アジアの研究者がネットワークをつくりながら、研究していくことが重要だと思います。

第3に、今回報告した麗江の例から言えることは、「誰が、何を、何のために、誰のために」文化資源として使うかということです。これは、あらゆる場合の基本的な問題です。ですから、その検証を常にやっていかなければいけません。その場合、特に「誰が」というのは、なかなか難しい問題です。ローカルの人がやればいいのかというと、必ずしもそうではないと私は思っています。というのは、こんにち、ある地域の人だけの知恵で、問題が解決できると思えないからです。逆に、地域でできなければ、政府が、と単純に考えることもありません。こんにちのグローバル化した世界では、NGO、市民社会の役割も大切です。ですから、先ほど上田先生が話されましたチベット族の場合も、ドイツのNGOの関与があるわけですね。そのように開かれたかたちの「誰」でなければならなくて、ローカルな社会を本質化してしまうと、いわゆる分派主義になるのだと思います。

最後に、私が専門としてきたバリについてです。実はバリにはまだ世界遺産がありません。1990年ころから、政府が、バリのヒンドゥー教寺院であるブサキ寺院を世界遺産にしようとしたことが幾度かありました。しかし、バリの地元の住民たちは、特に宗教関係者たちは、その都度世界遺産化に反対しました。というのも、ブサキ寺院は現にバリの人びとがヒンドゥー教の儀式に使っていますので、もし世界遺産になったら、いろいろと規制がかかったりして不都合が生じるのではないかということで、反対したわけです。また、バリはヒンドゥー教ですが、インドネシアのマジョリティはイスラム教ですから、ヒンドゥー教の文化遺産を、イスラム教が卓越するインドネシア政府が管理できるのか、というバリの人びとの疑問もありました。これは、世界遺産の問題を考えるうえでとても興味深い例なのですが、時間もないので、このくらいにしておきます。

○座長 请上田老师回应。

○上田 馬場先生、どうもありがとうございます。まず地方政府とNGOとの関係ですが、中国のNGOがどのような法的な規制の下にあるのかということは、私もきちんと抑えていませんが、変化が非常に激しいと思います。1990年代に中国でNGOがつくられときには、非政府の「Non」という面が強調され、警戒心を持ち非常に強い規制をかけるというかたちでした。おそらく1990年代の終わりぐらいの法では、確か、各省ごとに、福祉や自然保護など、それぞれの項目ごとに1つのNGOしか登録できないという規制がおこなわれていたと思います。私がいろいろ話を聞いたところでは、2000年代では、県レベルでいろいろな役所に登録をしていけば、NGO活動ができるというようなかたちになっているようです。1990年代にできた中国のNGOが、その後、どのように法的に変化しているのかということ、制度的には少し押さえる必要があるかと思えます。

NGOの方に聞くと、やはり登録するのは非常に大変な手間がかかるということです。日本のNGOが登録するのも大変ですが、それに勝るとも劣らないという大変さがあります。しかも、活動するなかで細かな規制を受けたりするそうです。チベットカフェの扎西多吉さんなどは、大変だと話してくれたことが非常に印象的でした。そのようなところを、どのようにうまく調整しながらやるのかということが、NGOにとっての非常に重要な仕事だと思います。そのなかで、国際NGOの役割が非常に大きいです。

中国の場合には、その官僚機構の体制のなかで管理されている役所の下で動かざるを得ないわけです。その場合、国際NGOは中国の官僚機構を飛び越えて、例えば、アメリカの自然保護団体は、中国のトップの政治家ともネットワークを持っているわけですから、地域のなかでのNGOの活動で障害が出てきたときには、国外の国際的なNGOのチャンネルを使って、中国人ではできないような、わりと上層のところには話を持っていくと話が通じるというようなことが結構あります。

ですから、このような中国の社会の体制からある程度フリーであるということが、国際NGOの役割としては非常に重要です。中国国内のNGO

に対しては、フリーであるという特色を積極的に生かしていくことが大事です。

そして、さまざまなものの見方を提示できるという面があります。やはり、地域社会で生きていると、自分たちの文化環境、生活環境のなかでしか発想できないわけですが、国外のNGOがまったく違うところでは、似たような事例などを紹介するなかで、活動の広がりやさらに広がる側面があるかと思えます。国際NGOの役割については、そのような多様な面で非常に重要であると感じています。以上です。

○座長 請園田老师回应。

○園田 貴重なデータだというお言葉をありがとうございます。たぶん4年後には、もっと多くのデータが集まり、もう少し正確に議論ができると思います。

質問が2つありました。全階層で反対が強くなっているのはなぜかということですが、実は反対が多くなっているのではなく、「どちらとも言えない」というのが多くなっています。この「どちらとも言えない」が多くなっている理由は、なかなか難しいですが、2つ考えられます。1つは、いろいろなケースがあるということの人々が認識するようになったことです。つまり、単純に身分制の違いだけではなく、農村から都市にやって成功した事例を知っていれば、どちらとはなかなか言いにくいです。これが1つ目です。

ところが、実はもう1つ、ある種の実力主義的な価値観の広がりや、それによる都市・農村間の差別の、ある種の合理化が起こっているのではないかという感じがしています。どのようなことかと言いますと、確かに問題はあるかもしれませんが、本当に実力があれば、都市にやってくるのでないかという違いを、差別という認識をしないようなメンタリティーが、もしかしたら強まっているのかもしれませんが。これはほかの価値観との関係でみなければわかりませんが、今のところ言えるのは、そのようなところでは、

2つ目は、市政府がどのような対応をすべきかということです。今日の話のなかでは、階層の問題を取り上げましたが、これは地方と中央の問題にかかわってきます。つまり、中央の政策として、農民工の権利保護の問題であったり、あるいはセ

ーフティーネットの強化という話については、トップダウンにやってきます。

ところが、都市の利益、現場には現場の感覚というものがあり、それを必ずしも実行に移すことができません。あるいは、それをおこなってしまうと、さまざまな問題が生じて、ときどき「上に政策あれば、下に対策あり」というかたちであらわれてしまうのです。いろいろな状況を合わせながら、少しずつ変わっていくのではないかとこの感じがします。

今日は紹介しませんでしたでしたが、ここ数年の間、天津ではローカル・アイデンティティ、つまり自分は中国人一般というよりは天津人としての意識が強くなっているといった結果が得られています。もしそうだとすれば、中央政府はそう言っていますが、天津の実態を考え、中下層の人たちの利益を代弁することになれば、中央政府が言っているような農民工の権益保護も重要だとはいえ、これはもっとも重要な政策課題にはならないということが、もしかしたら、これから起こるかもしれません。たぶん、このあたりの話は政治学の専門家の方に話をうかがっていただければと思います。以上です。

○座長 谢谢園田教授。

方李莉教授不在、我们会把各位的点评意见转达给她。下面请在会场的听众提问题。

○張玉林 我想向高明洁老师提个问题。刚才您在点评中提到中国的战争教育是失败的，民族教育不知怎么样。我想问一下您所理解的战争教育失败是什么意思。

我简单地说一下我的看法，我认为中国的战争教育是失败的。失败的表现是：不足。我用两个事实来说明，一个是我来自南京——非常敏感的一个地方，下个星期六就是12月13日。请记住南京大屠杀纪念馆是南京市的地方设施，是1985年才建立起来的，是在当时的中曾根政府反复出现对历史相关问题的否认之后出现的。与此相关12月13日这一天，中国国家元首、共产党的总书记和政府总理都不来南京。而日本每年的8月和9月，在广岛和长崎，国家政府首脑和皇室成员都是去的。第二个事实是，在我的老家，江苏省徐州市贾汪区塔山镇在1938年发生了一次小屠杀事件，40多人死亡。而当地的人们基本上都不知道这件事，我是在

回家调查时在当地编写的乡志（没有印刷出版）中知道这件事的。我想提醒在座的诸位，我们在做中日相关的研究时，不能仅仅依靠日本的传播媒介的报导，而应该深入到中国社会的底层。如果像日本的大众媒介、知识界所理解的那样，所谓中国民众对日本感情恶化是中国政府教育的结果的话，那么你们就把中国的民众、特别是下层民众看得太低了。谢谢！

○座長 请高明洁老师回答。

○高明潔 谢谢张老师，我说战争教育失败是有两点。一点是具体来讲，先不从近代来讲，就从日中战争的教育方面来讲，我不是搞中日关系研究的，但我每年要带三年级的学生暑期到中国实习，通过一些具体体验使我感到中日民众之间的关系是很好的，但上层政治不能说好。但是同时，中国很多民众所理解的日本人的形象(image)和所受的教育和电影上表现的形象还是有不同之处。这涉及到记忆(memory)的功能问题。我认为，对日本人的认识如果永远停留在战争记忆之中，那只能是一提起日本人就会联想到战争时期日本人残酷的形象，这个残酷的形象(image)产生于也固定在了对40年代战争中日本人的记忆中。同时我也同意您讲的，中国的战争教育并没有深入到底层。就像您老家徐州那个地方一样，今年我们到杭州调查，在那里也有同样的问题。当地的村民向我们讲了被记忆下来的战争时期他们那个地方被日本的飞机轰炸的过程。不能说因为我受了日本媒体的影响才有了刚才的发言，实际上我也对日本的媒体有很多的疑问，有时也很反感，因为我是个以现地主义为准则的人类学研究者。那么，我说的战争教育失败的意思在哪呢？我认为战争教育不应该停留在一个固定的时代上。应该分析战争发生的原因和教训，然后寻求避免战争发生的更人性的方式，以实现东亚及世界的和平。如果把战争教育的出发点只放在过去而不是未来，那只能是冤恨教育，而以此产生的对立只能用战争消除的话，人类的和平也只能是一个童话。

与此相反，比如说，来过日本的和没来过日本的中国人对日本的印象是截然相反的，这也是事实。我每次回国，都会听到对日本和日本人截然不同的评价。还有，在全球化影响下，所谓日本的软力量(soft power)，比如动画作品对改变中国青年人对日本的认识也有一定影响，没有学过日语的也通过

动画作品知道了一些日语的意思,在日本年轻人中也有同样的现象,这是一个好的现象。关于这个问题可以和张玉林老师在会下进一步交谈,好吗?

还有,刚才我给张海洋老师提的民族教育的功罪问题,是不是因为翻译的问题,被理解成国民教育,我说的是另外一个问题,会后再交流吧。

○座長 谢谢高明洁教授,我们这场文化讨论会还

有很多问题没有展开,以后还有机会,让我们再次以热烈的掌声感谢七位教授,也感谢会场的各位听众。谢谢!

○司会 大変お疲れさまでした。下で聞いていると、大変情熱、かつ反省の文化セッションでした。用中文来说是‘激情加上反思’的文化论坛。